

ひとり親家庭で育つ子どもの教育達成過程に関する研究

A Study on the Process of Educational Attainment of the Children in Single-Parent Families

コース 社会学

学生氏名 泰松 宏行

キーワード： ひとり親家庭 教育達成 ライフヒストリー
Key Words: (single-parent family) (educational attainment) (life history)

本論文は、ひとり親家庭で育つ子どもの教育達成過程に影響を与える要因について、ライフヒストリー分析の手法を用いて実証的に研究したものである。

先行研究において、ひとり親家庭で育つ子どもは二人親家庭で育つ子どもに比べ教育達成が低くなっていることが示されている。日本における従来の先行研究は、統計データをもとに、ひとり親家庭出身者の教育達成上の不利を経済的要因に求めることに終始していた。しかし、近年の研究の知見によると、教育達成過程における不利を経済的要因のみによって説明できないことが明らかになっており、質的データ分析による解明の必要性が指摘されていた。本論文は、先行研究とは以下の4点で識別される。①教育達成上の不利を経済的要因以外の要因からも分析を試みた。②教育達成過程について質的調査を行った。③ライフヒストリー分析を用いることによって教育達成過程全体から分析を試みた。④子どもに焦点をあてた支援を導き出せる可能性がある。

まず、ひとり親家庭で育つ子どものライフヒストリーを分析した結果、教育達成の高い子どもには親の役割を補う他の大人の存在があり、学習意欲を高めるだけの目標があるという特徴が見られたのに対し、教育達成が低い子どもには親や周囲の人々に教育達成に対する関心がないという特徴が見られた。

つぎに、最終的な教育達成に大きな影響を及ぼす高校選択時までの時期を中心に教育達成過程に影響を与える要因を分析した結果、次のことが明らかになった。対人関係要因においては、父子家庭の父は養育者役割を果たすことはなく、教育達成過程に直接的な影響を与えていないことが考えられた。親族は、同居、別居に関わらず、ひとり親の代わりとなって教育に関わることで、進路選択に直接的に関わることで子どもの教育達成過程に影響を与えていることが分かった。教員は、ひとり親の子どもという理由で特別なサポートなどを行っておらず、むしろ教員との関係が悪いと教育達成過程にマイナスの影響を及ぼし得るということが明らかになった。経済的要因については、トラッキング効果によって後の教育達成を限定すると考えられる高校選択において、経済的な困難がより高いトラックに入る機会を制限することが分かった。経済的に余裕がある家庭では、私立中学進学など教育達成過程の早い段階でより高いトラックに入ることや学校外教育への投資もでき、それが学力向上などに繋がり、結果的に高い教育達成を得られる可能性が高くなることが明らかになった。教育アスピレーション要因では、夢を持つことが教育アスピレーションを高めることが分かったが、その夢に教育達成が必要でない場合は教育アスピレーションに影響はなく、教育アスピレーションを高めるかは、夢がどのようなものであるかに左右されることが分かった。さらに、教育達成の高い人や教育達成によって得られる効果を理解している人が周りに存在することによって、教育アスピレーションを高めることが明らかになった。最後に、教員の関わり方によって、ひとり親家庭の子どもの教育達成を高める可能性があることが示唆された。